

SGH 通信 STONE SOUP

Mishima-Kita High School SGH Newsletter

October 30, 2015 No. 3

ベトナムでフィールドワークを実施



写真=上：ハノイの名門校チュウヴァンアン高校の生徒と交流し、水をテーマとした研究発表会を英語で行いました。左：水資源大学では、ベトナムでの豪雨災害や現在の水問題について英語で講義を受けました。生徒は積極的に質問を投げかけました。右：世界遺産の景勝地チャンアンと古都ホアルーを訪れ、ベトナムの歴史に思いを馳せました。

“Step out of your comfort zone” を合言葉に。

近代的な高層ビルが次々と建設されているハノイ市街。少しはずれると 1960 年代の日本を彷彿させる農村風景が広がります。発展に向かう大きなエネルギーを感じさせる国で、14 名の生徒達は、comfort zone を飛び出し、様々な挑戦・体験をしました。「水資源大学」での英語による講義の後、懸命に英語で質問する姿。高校交流では、相手校生徒の抜群のプレゼン

力に圧倒されながら、日本の水問題を様々な角度から資料を使って発表しました。JICA 職員の方からは、「町内会」という日本独特のシステムをベトナムで応用し、減災に役立てるプロジェクトを企画中という話を伺ったり、大使館表敬訪問ではベトナムの抱える諸問題を学んだりしました。参加者全員が、広い世界の存在を知り、歴史を学ぶ大切さと、さらなる「挑戦」への意欲をもらって帰国しました。(校長・杉山由美子)

未知と触れる喜び

ベトナムには多くの未知が詰まっていた。バイクの交通量の多さ、フレンドリーで英語力の高い高校生、都市部と農村部での生活。それらすべてが新鮮で、驚きや感動に満ち溢れていました。私はこの研修で未知と触れる楽しさを学びました。これからも多くのことを学び、活かしていきたいです。

(27HR・鈴木彩華)

1. 1年生新科目 LWI 始動

1年生全員が履修する SGH 新科目 LWI (Local Water Issues) の授業が開始されました。沼津市プラサ・ヴェルデにおける初期指導(写真)を皮切りに毎週水曜日に水ジャーナリスト橋本淳司氏をお招きし、国内の水問題についてアクティブラーニングを用いた授業展開をしています。LWI では「水」をテーマに、企業や水関連専門家、SGU (スーパーグローバルユニバーシティ) と連携を図り課題研究を進めています。次年度履修科目 GWI (Global Water Issues) と合わせ、生徒たちには「社会課題に対する関心」「問題解決力」「コミュニケーション能力」「深い教養」等を身につけ国際社会で活躍できる人材へと成長していきつてもらいたいと思います。



- 水は日常生活になくってはならないものですが、今まで深く学ぶことはありませんでした。授業を通して水の大切さや恐ろしさなど、さまざまな面から水を知ることができました。今後もより知識を増やしていきたいです。(12HR・中村咲紀)
- 普段は何も考えずに当たり前のように使っている水のありがたさを感じることができました。また、水について調べていくうちに、いつでもどこでもきれいな水が飲める日本に住めることは、幸運なことだと強く感じました。(17HR・松林志歩)

2. 「三北ウォーター・フォーラム準備セッション」を開催

7月23日、1年生は LWI の各チームで設定した課題について、さまざまな水の専門家の講演を聴き、質問を投げかけました。その後、生徒は課題を再設定し、夏休みにフィールドワークを実施しました。協力いただいた専門家(団体・個人)は次のとおりです(順不同)。八千代エンジニアリング、タニタハウジングウェア、雨水市民の会、富士山学会、アクアマエストロ、グラウンドワーク三島、大岡信ことば館、栗田工業、県東部危機管理局危機管理課、アクアスフィア。

- 印象に残った話は、河川の汚濁による外来種問題だ。水問題は汚濁や枯渇だけに留まらず、生態系の破壊等あらゆるものに深い関係があることを知った。水と水に関わることをより深く学び、自分の視野を広げていきたい。(11HR・鈴木智陽)

3. 東京大学と東京工業大学で「水」問題について受講

8月5日、1年生126人が東京大学を訪問。沖大幹教授、芳村圭准教授から水問題に関する御講義をいただきました。8月26日には1~3年生の生徒22人が東京工業大学を訪問。木内豪教授から水問題についての御講義をいただきました。

- 世界の水問題を日本と比べながら聞いていました。メモをとる手が止まりませんでした。(参加生徒アンケートより)

4. 中学生1日体験入学、1年生が先生役で模擬授業を実施

7月28日、2000人以上の参加者を迎えての体験入学の中で90人ほどの1年生がファシリテーター役となり、LWI の模擬授業を実施しました。英語のカードを手がかりに推理していくアクティビティに始まり、最後は生徒が LWI の授業を通してこんな大人になっていきたいという抱負を述べ、中学生にとっても高校生にとっても意義のある60分となりました。



- これは遊びだろうか、いや授業である。SGH 体験講座で教師役になり、水問題に関するアクティビティを行った。生徒主体の授業のため、自分がやることは説明と答えまでアシスタントのみ。大きな声ではっきり話し、あくまで主役は生徒(中3生)であることを意識して授業をした。中3生は目をキラキラさせながら真剣に話し合いをしていたので、見ている自分も嬉しくなった。生徒主体型授業の教師、悪くないと思う。(16HR・鈴木駿人)

◎体験中学生の声：最初は英語が難しいと思ったけど、みんな協力しているいろいろな人の意見が聞けたのでよかった。中学校では体験できないかたちの授業で面白かったです。

5. アメリカの名門大学からインターン学生が来校

7月2日、ハーバード大学とシカゴ大学の学生が来校し、アメリカの学生生活についてプレゼンしていただきました。7月11日には、スミス大学の佐藤美里菜さんが、「Step out of your comfort zone!」と語り生徒を激励しました。